

プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版

坂井建雄 監訳

市村浩一郎, 澤井 直 訳

＜書評者＞ 埴原恒彦（北里大学教授・解剖学）

解剖学の初学者にとって、用語の暗記はいつも重くのしかかる。解剖学は暗記ではなく理解する学問であるという言葉は、教える側の常用句であるが、それ以前に基本的な解剖学用語は覚えておかなければ、理解の段階までいかないのである。ゲームでいえば、そのゲームが面白いかわからないか、どうしたら勝てるのかなどを理解する前に、まずはルールを覚えなければ何も始まらない。ゲームであろうが勉強であろうが、それを理解し発展させるための第一歩は、多くの場合、砂を噛むような思いも伴う。

解剖学は近代医学として最初に確立され、ヴェサリウス以降 400 年以上にわたり蓄積されてきた知識体系があり、したがって、その用語も膨大な量である。初めて解剖学を学ぶ医学生も多くはその量の多さに圧倒され、最初から消化不良を起こす。分厚い、何分冊かの解剖の教科書、アトラス、ある

いは解剖学用語といった本を前に、医学生が何から手をつけたらよいのか茫然としてしまうのは、むしろ当たり前であろう。

さて、『プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版』は、そんな医学生にとって救いの 1 冊であるかもしれない。まずは見開きのページの左にはわかりやすいイラスト、右には用語と数行の読みやすい解説（特に重要なものについては Q & A による問題提起型解説や、臨床的な重要性についての解説が適宜付されている）で構成され、さらに、ページごとの用語数が多くても 10 語程度という、感覚的にも、また実質的にも消化不良を起こさない量で、しかも重要な用語をしっかりと押さえている。また、日本語と英語が同時に表記されており、すぐに対応させることができる。ここ数年、医師国家試験には数問、基本的な解剖学用語の英語表記が出題されており、今の医学生にとって、英語あ

るいはラテン語でも解剖学用語を理解することは必須であるが、本書はこのような点でも非常に使い勝手がよい。

かつて、理論、またはごく一部の科学者による研究領域にとどまっていた免疫学、遺伝学、生物化学をはじめとする生命諸科学が、昨今急速な勢いで膨大な成果を上げ、それらの知識と応用技術が今日の医学、医療を支えているといっても過言ではない。科学知識は、その宿命として過去の遺産に何物かを付け加えながら常に階段を上り続ける。新しい知識、技術を研究・教育することは大学の使命であり、それをいち早く学ぶことは大学生の権利でもあるが、同時に課題でもある。今日の医学生が勉強しなければならない科学知識の量の多さは、十数年前と比較すらできないであろう。このような中で、医学生が最も基本的な解剖学の知識を最も要領よく、短時間で身に付けることのできる参考書として、本書を推薦したい。

●B6 頁 816 2011 年

定価 4,725 円

（本体 4,500 円＋税 5%）

[ISBN978-4-260-01126-6]

医学書院 刊